

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
中国デザイン専門学校	昭和52年3月18日	田口 一子	〒700-0842 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 第一平田学園	昭和52年3月18日	平田 真一	〒700-0842 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																															
文化・教養	造形専門課程	ビジュアルデザイン科	平成21年文部科学省 告示第21号																																
学科の目的	本校のビジュアルデザイン科は、教育基本法及び学校教育法の趣旨にのっとり、ビジュアルデザイン(広告、印刷、WEB等)に関する専門的学術を教授し、その技術を修得させると共に、教養を高め、広く社会に貢献できる人物の育成を目的とし、あわせて地方文化の向上に寄与しようとするものである。また、ビジュアルデザイン分野の職業に就く為に必要な実践的かつ専門的な能力を、本校独自の産学協同事業やインターンシップ等を企業等の連携を通じ育成することを目的とする。																																		
認定年月日	平成26年3月31日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	105単位以上	14単位	261単位	26単位	0単位	0単位																												
	単位																																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																														
180人	112人	0人	10人	19人	29人																														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年度初めに全学生に配布する学生便覧レッスンのアウトラインに、授業科目ごとに明記。評価方法に関しては、「筆記試験及び作品提出の有無」。基準に関しては「具体的な評価基準」を科目ごとにそれぞれ明記。																															
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月21日～翌年1月7日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	進級・卒業には年間35単位以上及び当該年次における全必修科目の取得を要する。また、卒業には総計105単位以上の取得を要する。																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任もしくは学科担当者からの定期的な連絡と情報把握。学校行事等への参加を促す。保護者への定期的な連絡。希望があれば個別学修指導。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア(清掃活動、献血協力、マラソン等) 専体連への参加 学友会組織 ■サークル活動:※ 同好会発足に必要な条件を満たしていればサークル活動をおこなえる。 有																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 企業名:マルシン広告社、(有)アド・タケモト、(株)タカオ、(株)カプコンなど 業界:広告・印刷・各種デザイン・出版・映像・動画制作・WEBデザイン・製造・販売 ■就職指導内容 1年前期/修学基礎 1年後期/キャリアデザイン・企業見学 2年前期/就職ガイダンス①・ビジネスマナー・インターンシップ・ビジネスアプリケーション 2年後期/適職テスト・就職ガイダンス②・コミュニケーションプロジェクト(企業交流会) 3年前期/就職ガイダンス③・CtoC企業ガイダンス(校内合同企業説明会)・就職ガイダンス④ ■卒業者数 : 31 人 ■就職希望者数 : 27 人 ■就職者数 : 20 人 ■就職率 : 74 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 64.5 % ■その他 ・進学者数:0人		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩士検定(3級)</td> <td>③</td> <td>30名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定(2級)</td> <td>③</td> <td>13名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>レタリング検定(3級)</td> <td>③</td> <td>13名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>レタリング検定(2級)</td> <td>③</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>ジョブパス(ビジネス能力検定)</td> <td>③</td> <td>48名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>I BUTインターネットベーシックユーザーテスト</td> <td>③</td> <td>31名</td> <td>28名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 「全国きものデザインコンテスト」入選/「集英社 ショート部門期待賞 新人賞」/「さんかくウィーク2016 イラストコンテスト」優秀賞・入選/「月刊ガンガン 奨励賞」/ジャンプスクエア 新人マンガ賞受賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩士検定(3級)	③	30名	17名	色彩士検定(2級)	③	13名	5名	レタリング検定(3級)	③	13名	7名	レタリング検定(2級)	③	3名	3名	ジョブパス(ビジネス能力検定)	③	48名	35名	I BUTインターネットベーシックユーザーテスト	③	31名	28名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
色彩士検定(3級)	③	30名	17名																																
色彩士検定(2級)	③	13名	5名																																
レタリング検定(3級)	③	13名	7名																																
レタリング検定(2級)	③	3名	3名																																
ジョブパス(ビジネス能力検定)	③	48名	35名																																
I BUTインターネットベーシックユーザーテスト	③	31名	28名																																
(平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)																																			

	<p>■中途退学者 8 名 ■中退率 6.25 %</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者112名（平成28年4月1日入学者を含む） 平成29年3月31日時点において、在学者104名（平成29年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>「学校生活・学業不適応」「進路変更」「経済的事情」</p>
中途退学の現状	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の出身校を訪問した際には情報交換を行う等、教員によるきめ細かな指導の実施。</li> <li>・入学後4月中に担任がクラス学生全員と面談を行う。</li> <li>・年4回担任との定期面談。</li> <li>・3日連続授業欠席の学生に対しては3日目には必ず担任が連絡をする。</li> <li>・退学者の徴候とその対策指導チェックリスト（面談、指導記録）を作成。</li> <li>・月に1回教員ミーティングを開催し情報共有と指導支援について協議する。</li> <li>・保護者との連携強化。</li> </ul>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 国による授業料減免制度、特待生制度（第一平田学園特別奨励金）授業料の減免措置、入学金の減免措置、入学金・授業料以外の減免措置</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）</p>
当該学科のホームページURL	<p>URL: <a href="http://www.cdc-de.ac.jp">http://www.cdc-de.ac.jp</a></p>

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業実践専門課程の基本方針である、「高等学校における教育の基礎の上に、深く専門的な程度において専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設しなければならない。」を基にしたビジュアルデザイン分野の教育を目的としている。また、この目的に応じて、企業等の要請を十分に活かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するために、ビジュアルデザイン分野企業等の密接な連携により、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組んでいる。また、学生の就職先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを把握するため、教育編成委員会等の委員の所属先以外の企業等へのヒアリングやアンケート等を別途実施している。

本校独自の産学協同人材育成支援システム「CtoC System」

企業や地域との交流によるさまざまな実践体験は、学生たちの武器と考えます。

CHUGOKU DESIGN COLLEGE: 中国デザイン専門学校、COMPANY: 企業、COMMUNITY: 地域

「CtoC System」とは、本校と企業や地域を結ぶ情報ネットワークのことです。

業界の動向や人材育成についての最新情報を共有するためのプラットフォームとして、企業紹介やインターシップなどさまざまな活動を行っています。

企業紹介／求人依頼「Young DAM」

本校卒業生や企業間の求人・求職情報、ビジネスに関する提案などの提供とコーディネートを目的としています。即戦力になる人材や、短期間の技術アルバイト、パートの紹介にも対応。各関係者からの問い合わせは年々増えています。

企業紹介／制作依頼「DETCH(デッチ)」

企業や地域からの仕事の依頼を受け、在校生が中心になって活動する新インターンシップ制度です。

イベントの企画、デザイン制作、ショーへの協力など、学生の自由で豊かな発想を活かした取り組みが、高く評価されています。

企業紹介／交流イベント「CtoC Communication Project」

年に一度大々的に開催。CtoCの総決算ともいえる学生と教職員、企業間の交流イベント。

「Young DAM」「DETCH」を通じて培った企業との連携をより確かなものにするために、年に1回開催する交流

イベント。本校と企業等、あるいは企業同士の情報交換や交流の場となっています。

企業紹介／合同説明会「CtoC就職ガイダンス」

岡山県下のデザイン／ファッション分野の企業の方々を目の前にする、就職面談同様のガイダンス。コミュニケーションを図ることにより就職への意識向上、マナーやプレゼン技術を実践的に試す機会として3年生を対象に5月に実施しています。

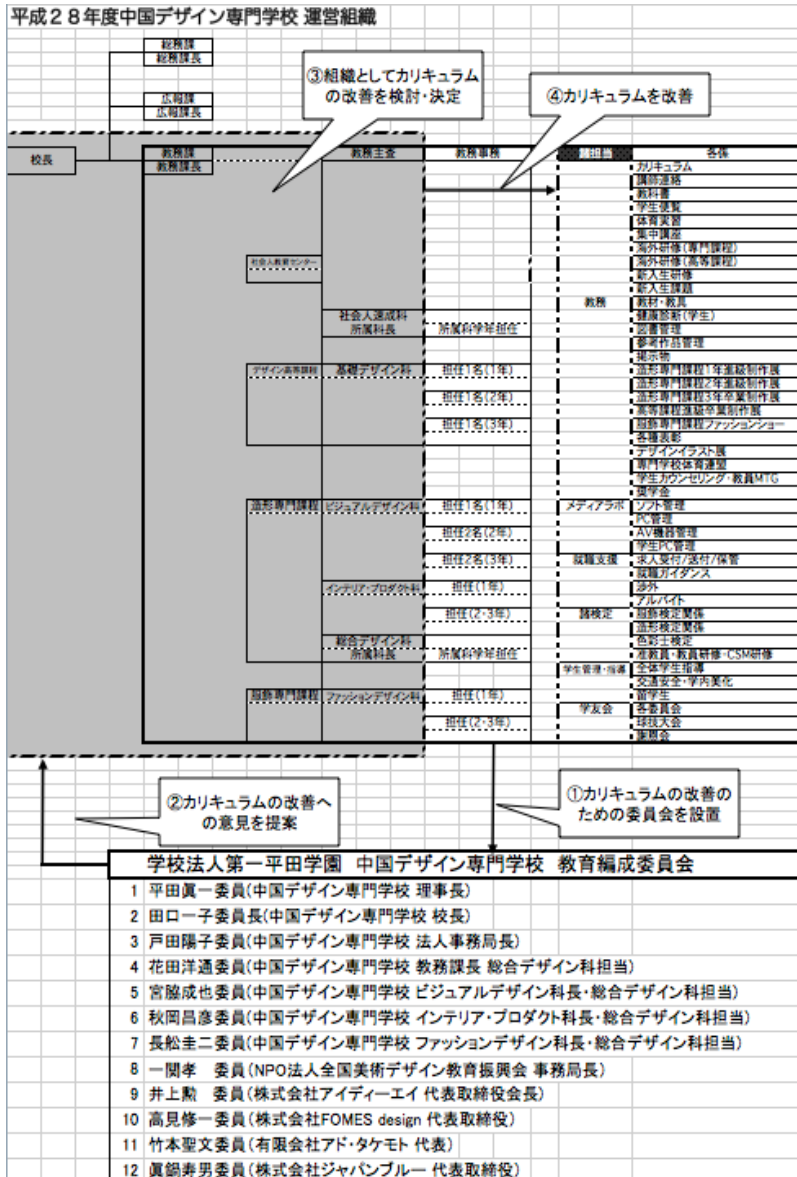
企業紹介／就業体験「インターンシップ制度」

数多くの企業の方々にご協力いただき、社会に出て仕事を体験するインターンシップ制度を充実させています。

ファッションデザイン科では2年次で2回、ビジュアルデザイン科インテリアプロダクト科では2年次に1回、

総合デザイン科では2年次に1回と4年次に2回インターンシップを実施し、自らの目標の仕事に触れる機会を設けています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月20日現在

名前	所属	任期	種別
一関 孝	NPO法人全国美術デザイン教育振興会 事務局長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	①
井上 勲	株式会社アイディーエイ 代表取締役会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③
高見 修一	株式会社FOMES design 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③
竹本 聖文	有限会社アド・タケモト 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③
眞鍋 寿男	株式会社ジャバンブルー 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回以上の開催をしている。(開催時期:毎年8月上旬、1月中旬)

(開催日時)

第1回 平成28年8月5日 16:00～17:30 会場:本校会議室

第2回 平成29年1月18日 16:00～17:30 会場:本校会議室

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育編成委員会において下記の内容の意見交換を行った。

毎年、休学・退学者の割合に変動がある。最近の学生の傾向としてメンタル面が弱く、物事に挫折しすぐ諦めてしまうことがあることと、学年によってその割合が極端に多いことがある。今後のカリキュラムで、課題や試験などあまり負担ばかり与える印象ではなく、楽しく学習できるような仕組みを検討することと、クラス全体を引っ張っていくリーダーをどのように育てるかを検討。

ビジュアルデザイン専攻

もっとインターンシップやコンペ制作などに取り組んではどうか？

平成23年度からインターンシップを実施し、現在実績と協力企業を着実に増やしている。

公募に関しては、作品発表や実力を試す場としてもっと活用していきたい。特に全国規模の公募にチャレンジできるような授業を検討していきたい。

イラストレーション専攻

発達障害や精神的な問題を抱えている学生が他専攻に比べ多い。

最近の学生の傾向としてメンタル面が弱く、物事に挫折しすぐ諦めてしまうことと、学年によってその割合が極端に多いことがある。学内でメンタルケアができるような場所を設けストレスを軽減し、カリキュラムもあまり負担ばかりが増加しないよう検討したい。

キャラクターデザイン専攻

平成23年度スタートした専攻で、就職先や具体的な進路が見えづらい。卒業生をまずは就職させることを大前提に、専攻の特徴も含めて、どのような仕事に就くのかを学校案内や学校Webサイト上で提示していく。

アニメ・マンガ専攻

専門分野の授業が多い割に講師の人数が少なく、講師に負担がかかりやすい。専門分野のため岡山で活躍している講師の人材確保が難しいことが原因。以前から講師の人材確保や募集は行っているが、条件や希望があわないことが多い。

引き続き、優れた人材が確保出来るよう今後共、インターンシップや産学共同の取り組みを強化するようご意見をいただいた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と本校の連携によるインターンシップや本校独自の企業等からの業務委託「DETC（デッチ）」を通じ、本校の学生にデザイン・ファッション分野企業の現場及び業務を経験させ、学内では得ることが困難な実践的で幅広い見識と実社会への適応性を身につけさせることを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

本校2年次夏期休暇中にビジュアルデザイン分野企業等におけるインターンシップ（1週間程度）を実施。また、本校独自の企業等からの業務委託「DETC（デッチ）」では次に定める項目を業務として実施している。

デザイン・ファッション分野企業等からの業務委託形式。

(1) コンペティション形式業務。

(2) 現場実習形式業務。

(3) 依頼制作形式業務。

(4) その他、協議のうえ別途合意した業務。

それぞれ学科内で組織的にカリキュラムや授業に落とし込み、担当教員は企業等のやりとり等の窓口は行うが学生の自主性を重んじ打合せや訪問等学生単身で行動させる。

上記すべての学修成果として企業等に終了後評価票を記入いただき、その反省改善点をまとめ学生へのフィードバック及び「教育の質の確保・向上」に向けて参考としている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ライフデザイン①	協調性やチームワークを身につけるためにライフデザイン合同企画を行う。進路や年間目標などを確認するため個人面談や目標シート作成を行う。企業連携・協同事業実習の為にライトアップ企画やロゴデザインなど校内外での活動をおこなう。	公益社団法人おかやま観光コンベンション協会
ベーシックデザイン演習	●パソコンを使った進級制作プレゼンテーションボード制作。●企業連携・協同事業実習の為に、グループでティーシャツデザインコンペ活動をおこなう。●アクリルガッシュによるタイポグラフィ課題の制作。	株式会社ショット
インターンシップ	夏期間中の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。企業実習を通じて、現場での実作業により確実なスキルアップを目指す。企業評価を受ける事を目的とする。	アッパービレッジ、有限会社二葉写真館、GOGA事務所、デザインシータ、株式会社アドボックスフォトグラフィ、西崎泰正（漫画家）
ライフデザイン③	担任やクラスメイトとの情報交換、面談を通じて、目標に向かった学生生活を送れるよう計画・振り返りをする。ビジュアルデザイン科合同のグループワークでは、3年生の補佐をしながら自分の役割や他者との関わり方を意識し、グループ全体としての成果へ結びつける。企業連携・協同事業実習の為にライトアップ企画やロゴデザインなど校内外での活動をおこなう。また、就職活動に向けての準備や心構えを行う。	公益社団法人おかやま観光コンベンション協会
ゼミⅠ	それぞれ講師の専門性を活かした内容の実習授業を行う。ものづくりに対する視野や専門性を高め、デザインや将来に対する理解を深める。企業連携・協同事業実習の為にロゴデザインやパッケージデザインなどの活動をおこなう。	(株)サンホーム
DTP制作Ⅰ	・Adobe Illustratorを使ったトレース技法／素材制作・エンドユーザやクライアントを想定した、伝わりやすく効果的なデザインレイアウト（文字、サイズ、位置、配色、余白、図版の工夫など）を学ぶ。・基本的な印刷物制作のワークフロー（立案、デザインラフ、カンパ、校正、データ入稿、納品）を通じて制作する。企業連携・協同事業実習の為に年賀状デザインや書籍のカバーデザイン活動をおこなう。	株式会社アクセア/日宝総合製本株式会社
ゼミⅡ	それぞれ講師の専門性を活かした内容の実習授業を行う。ものづくりに対する視野や専門性を高め、デザインや将来に対する理解を深める。企業連携・協同事業実習の為にロゴデザインやパッケージデザインなどの活動をおこなう。	(株)サンホーム
ライフデザイン⑤	担任やクラスメイトとの情報交換、面談を通じて、目標に向かった学生生活を送れるよう計画・振り返りをする。実践的な就職活動に臨み、自分の目標に添った成果を挙げられる環境づくりをする。ビジュアルデザイン科合同のグループワークでは、3年生としてリーダーシップをとりながら自分の役割や他者との関わり方を意識し、グループ全体としての成果へ結びつける。企業連携・協同事業実習の為にライトアップ企画やロゴデザインなど校内外での活動をおこなう。	公益社団法人おかやま観光コンベンション協会
ゼミⅢ	それぞれ講師の専門性を活かした内容の実習授業を行う。ものづくりに対する視野や専門性を高め、デザインや将来に対する理解を深める。企業連携・協同事業実習の為にライブイベントやシャッターイベントなどの活動をおこなう。	スタディキッズ進学塾 はちまき塾

ゼミⅣ	それぞれ講師の専門性を活かした内容の実習授業を行う。ものづくりに対する視野や専門性を高め、デザインや将来に対する理解を深める。企業連携・協同事業実習の為にポスターデザインなどの活動をおこなう。	山陽新聞事業社 中国陸上競技教会
DTP制作Ⅳ	IllustratorとPhotoshopを使って情報整理や表現方法を実践形式で学ぶ。課題提出時にはプレゼンテーションを行い「伝える力」を身につける。企業連携・協同事業実習の為にイベントチラシのデザインなど校外での活動をおこなう。	株式会社アクセア

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校は関連分野における先進的な知識・技能等を修得するために「教職員研修規定」を定め、教職員の研修等に組織的・継続的に取り組んでいる。(専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修と、授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修)年度始めに教職員全員が研修年間計画を作成提出する他、必要により所属長の命によって研修を指示する場合も研修費用は学校がバックアップし全体のレベルアップに努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

ecole(作家)活動 参加者:ビジュアルデザイン科花田洋通  
平成28年通年 成果まとめ:3月発行フリーマガジン 助成先:こども夢基金

Arts haremachi ディレクター 参加者:ビジュアルデザイン科花田洋通  
平成28年通年 主催:イオンモール岡山  
前期作品展示:4月～10月 リメイクワークショップ:10月 後期作品展示:10月～翌年秋

「ニコニコ超会議2016」視察 参加者:ビジュアルデザイン科熱田将弘  
平成28年4月29日 研修先:東京/幕張メッセ

社会人対象 初級者のための「デザイン・レイアウト基礎講座」「DTP・印刷基礎講座」講師  
参加者:ビジュアルデザイン科村木威文  
平成28年5月11日 主催:社団法人日本印刷技術協会

平成28年度ADEC教員研修会「色彩の“現場力”をアップする3級・2級試験の概要と対策、色彩士検定1級のめざすところ」  
参加者:村木威文  
平成28年8月9日 主催:NPO法人全国美術デザイン教育振興会(ADEC)

社会人対象「印刷基礎講座～印刷ビジネスと印刷技術の基本を学ぶ2日間(初級編)」講師  
参加者:ビジュアルデザイン科村木威文  
平成28年9月27日～28日 主催:社団法人日本印刷技術協会

平成28年度文部科学省委託事業「産業界の求める企画力・提案力・価値創造力のあるIT技術者養成の地域版学び直し教育カリキュラム開発」  
第13回ビジネスプロデュースコンペティション 検討会 参加者:ビジュアルデザイン科村木威文  
平成28年10月11日 主催:一般社団法人全国専門学校情報教育協会

平成28年度第28回高校デザイン・イラスト展全国審査会 参加者:ビジュアルデザイン科花田洋通  
平成28年10月13日 主催:NPO法人全国美術デザイン教育振興会(ADEC)

平成28年度デザイン・フェスタ出展 参加者:ビジュアルデザイン科熱田将弘  
平成28年11月25日～29日 会場:東京ミッドタウン/ビッグサイト

平成28年度「チャレンジワーク!お仕事体験 漫画家になろう!」 参加者:ビジュアルデザイン科宮脇成也  
平成28年12月3日 会場:福田公民館 主催:岡山市立福田小学校

平成28年度東京 アニメ業界企業訪問情報収集研修 参加者:ビジュアルデザイン科西崎裕之  
平成28年12月20日～21日 企業名:エイケン、スタジオかぐら、東京ルネサンス、ウオンバット

平成28年度文部科学省委託事業「産業界の求める企画力・提案力・価値創造力のあるIT技術者養成の地域版学び直し教育カリキュラム開発」  
第13回ビジネスプロデュースコンペティション 実施会議 参加者:ビジュアルデザイン科村木威文  
平成28年12月15日 主催:一般社団法人全国専門学校情報教育協会

平成28年度「グローバルゲームジャム2017」参加 参加者:ビジュアルデザイン科熱田将弘  
平成29年1月20日 会場:吉備国際大学 岡山キャンパス

平成28年度文部科学省委託「学校における情報セキュリティを確保したICT環境強化事業」学校における情報セキュリティ及びICT環境整備等に関する研修会 参加者:ビジュアルデザイン科村木威文  
平成29年2月14日 会場:岡山商工会議所 主催:文部科学省委託「学校における情報セキュリティを確保したICT環境強化事業」

御茶の水美術専門学校卒業制作展視察及び学校見学 情報交換 参加者:ビジュアルデザイン科花田洋通 宮脇成也  
平成29年3月10日 研修先:平成28年度御茶の水美術専門学校卒業制作展:東京

平成28年度「アニメジャパン2017」視察 参加者:ビジュアルデザイン科熱田将弘  
平成29年3月25日 会場:東京ミッドタウン/ビッグサイト

平成28年度「Illustrator & Photoshop 新機能講座研修」 参加者:ビジュアルデザイン科齋藤雄一  
平成29年3月30日 主催:Too Training Center Desi 大阪校



## ②指導力の修得・向上のための研修等

①新採用・2・3年目教員の研修会(新人対象の教職員資質向上講座)参加者: 教務 永田、中条・ビジュアルデザイン科 村木、松居、小林・総務 大屋 教務課長ビジュアルデザイン科花田 広報課長ファッションデザイン科長船 総務課長戸田 理事長 校長  
第1回平成28年8月3日 テーマ「専修学校について、本校について」  
第2回平成28年8月17日 テーマ「教員のあり方、学校職員のあり方について、入試について」  
第3回平成28年8月31日 テーマ「研修会まとめと質疑応答」

②全体研修会(教職員意識の徹底、外部講師を招いてのテーマ研修)各1時間30分程度  
平成28年4月15日 テーマ「選挙について特別講演会」  
平成28年10月9日～11月27日 テーマ「岡山芸術交流」  
平成28年10月14日 テーマ「スマートフォン・インターネットトラブル講話」  
平成29年3月18日 テーマ「人気イラストレーター有満弘氏によるライブペイントセミナー」

③職業教育・キャリア教育に携わる全ての教職員のための「キャリア・サポーター養成講座(CSM講座)」  
平成28年7月25日～27日 参加者:ビジュアルデザイン科小林明日香  
主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 実施:岡山県専修学校教員研修委員会

④平成28年度専修学校教員教職課程研修  
参加者:インテリアプロダクト科小松原・中山、ビジュアルデザイン科宮脇・松居・村木・花田・小林  
平成28年7月20日～22日B類/平成28年7月25日～27日A類  
主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 実施:岡山県専修学校教員研修委員会

⑤平成28年度全専各連中国地区協議会総会及び研修会 平成28年7月15日  
参加者:ファッションデザイン科長船、ビジュアルデザイン科宮脇/花田、インテリア・プロダクト科秋岡、総務課戸田/岸本、広報課平田、理事長、校長  
主催:全国専修学校学校各種学校総連合会中国地区協議会

⑥企業紹介/交流イベント「CtoC Communication Project」  
※年に一度開催。CtoCの総決算ともいえる学生と教職員、企業間の交流イベント。「Young DAM」「DETC」を通じて培った企業との連携をより確かなものにするために、年に1回開催する交流イベント。本校と企業等、あるいは企業同士の情報交換や交流の場。  
平成28年度第16回「CtoC Communication Project」平成29年3月18日 テーマ「デニム・ジーンズ産業の今」

⑦「CLUB CtoC」※2ヶ月に一度開催。本校独自の企業・教職員との勉強会及び異業種交流会 各2時間程度  
平成28年度第1回 平成28年6月24日 テーマ「企業×学生コラボレーション事業報告」  
平成28年度第2回 平成28年8月6日 テーマ「真夏の花火スペシャル」  
平成28年度第3回 平成28年12月16日 テーマ「話題の有るものを、確かめよう」

## (3) 研修等の計画

「教育の質の確保・向上を目的とした」教職員研修会と教員ミーティングを毎月行っている。  
また、2ヶ月に一度開催している本校独自の企業・教職員との勉強会及び異業種交流会「CLUB CtoC」を15年以上行っている。  
それぞれの研修会勉強会内にて企業等から講師を招いて教職員に対し関連分野における勉強会や学生指導、一般実務に関する知識、技術、技能などについて校内で組織的・継続的に行っている。また定期的に教職員研修会にて自主研修報告会を行い、教職員情報共有に努めている。

### 年間教員研修計画

- 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修
- 授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修
- その他

### ①専攻分野における実務に関する研修等

自主研修(各自がテーマを決めて年度内の研修を自主的に行う)

- ◎ 分野別企業訪問(デザイン・ファッション分野で注目の企業への訪問)
- ◎ 作品企画と自主作品制作及び発表
- ◎ 専門分野のイベントや講演会に参加し、専門知識・技術や最新情報の収集
- ◎ 専門家との交流・意見交換・情報提供の企画と実施
- ◎ 外部から依頼のあったデザイン・ファッション関連イベントにおける企画・運営及びシンポジウムパネリスト参加

### ②指導力の修得・向上のための研修等

① 新採用・3年目教員の学内研修会(新人対象の教職員資質向上講座:7月～8月までの計3回) ※内容  
一回目「専修学校について、本校について」理事長・校長、二回目「教員のあり方、学校職員のあり方について」校長・総務課長・教務課長・広報課長、三回目「レポート終了後対象者約1000字程度のレポート作成」テーマ/本校教職員として学校へどう貢献すべきか、三回目「レポート発表後研修会まとめと質疑応答」校長・総務課長・教務課長・広報課長

② 全体研修会(教職員意識の徹底、外部講師を招いてのテーマ研修:年2回程度)

③職業教育・キャリア教育に携わる全ての教職員のための「キャリア・サポーター養成講座(CSM講座)」※主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 実施:岡山県専修学校教員研修委員会 毎年7月下旬3日間開催

④専修学校教員教職課程研修A類(毎年7月下旬間開催)、B類(毎年7月中旬間開催)※主催:岡山県専修学校教員研修委員会

⑤全専各連中国地区協議会総会及び研修会※主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

⑥文部科学省補助事業 専修学校教育内容等改善研究協力校事業「中堅教員研修」科目:【教員のキャリアデザインワークショップ】【新任指導力】【学校の経営】【体系的カリキュラム・シラバス作成】【教育・指導力向上】【学級経営・学生対応】【リスクマネジメント】※主催:一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

⑦企業紹介／交流イベント「CtoC Communication Project」※年に一度開催。CtoCの総決算ともいえる学生と教職員、企業間の交流イベント。「Young DAM」「DETCHE」を通じて培った企業との連携をより確かなものにするために、年に1回開催する交流イベント。本校と企業等、あるいは企業同士の情報交換や交流の場。

⑧「CLUB CtoC」※2ヶ月に一度開催。本校独自の企業・教職員との勉強会及び異業種交流会

⑨ 指示研修(必要により所属長の命によって研修を指示する)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者とともに、各専攻分野企業等から委員が参画した学校関係者評価委員を設置。特に、企業等との密接な連携による取り組みを重要と考え、学校評価を通じた組織的・継続的な教育活等の改善を基本方針と考えている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか 1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか 1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか 1-1-4 理念・目的・育成人材像は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか 1-2 学校の特色はなにか 1-2-5 学校の比類ない特色として挙げられるものがあるか 1-3 学校の将来構想を抱いているか 1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想をいっているか
(2) 学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか 2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか 2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか 2-5 事業計画は定められているか 2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか 2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-6-6 運営組織図はあるか 2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか 2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか 2-7-10 人事考課制度は整備されているか 2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか 2-7-12 賃金制度は整備されているか 2-7-13 採用制度は整備されているか 2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか 2-8 意思決定システムは確立されているか 2-8-15 意思決定システムは確立されているか 2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか 2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか 2-9-18 業務効率化を図るシステム化がなされているか

<p>(3)教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか  3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか  3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、達成することが可能なレベルとして、明確に定められているか  3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達する事が可能なレベルとして、明確に定められているか  3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか  3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか  3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか  3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか  3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか  3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか  3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか  3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか  3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業のシラバスが作成されているか  3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか  3-14-10 学生による授業評価を実施しているか  3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか  3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか  3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか  3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか  3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか  3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-1  3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか  3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか  3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか  3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか  3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か  3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか  3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか  3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか  3-17 資格取得の指導体制はあるか  3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか  3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか  3-18 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか  3-18-25 キャリア教育が行われているか  3-18-26 キャリア教育の実効性は検証されているか</p>
<p>(4)学修成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか  4-19-1 学生の就職に関する目標を達成したか  4-19-2 就職成果との推移に関する情報を明確に把握しているか  4-20 資格取得に関する目標を達成したか  4-20-3 資格取得に関する目標を達成したか  4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか  4-21 退学率の低減に関する目標を達成したか  4-21-5 退学率の低減に関する目標を達成したか  4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか  4-22 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか  4-22-7 卒業生は社会で活躍し、評価を得ているか  4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか  4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか  4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか</p>

<p>(5) 学生支援</p>	<p>5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか  5-23-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか  5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか  5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか  5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか  5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか  5-24-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか  5-24-6 学生相談室を開設しているか  5-24-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか  5-24-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか  5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか  5-25-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか  5-25-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか  5-25-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか  5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか  5-26-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか  5-26-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか  5-26-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか  5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか  5-27-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか  5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか  5-28-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか  5-29 保護者と適切に連携しているか  5-29-17 保護者と適切に連携しているか  5-30 卒業生への支援体制はあるか  5-30-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか  5-30-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか</p>
<p>(6) 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか  6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか  6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか  6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか  6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか  6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか  6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修等について、その実績を把握し教育効果を確認しているか  6-33 防災に対する体制は整備されているか  6-33-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか  6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか  6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か  6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか  6-33-10 防災訓練を実施しているか</p>
<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<p>7-34 学生募集活動は適正に行われているか  7-34-1 学生募集活動は適正に行われているか  7-34-2 学校案内等は志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか  7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか  7-34-4 募集定員を満了募集活動となっているか  7-35 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか  7-35-5 就職実績、資格取得実績、卒業生の教育成果は、学生募集に貢献したか  7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか  7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか  7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか  7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか  7-37 学納金は妥当なものとなっているか  7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか  7-37-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか</p>

(8)財務	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-39-3 年度予算、中間計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-40-5 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-40-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p> <p>8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか</p> <p>8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか</p>
(9)法令等の遵守	<p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか</p> <p>9-42-2 法令や専修学校設置基準の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-44-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか</p> <p>9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか</p> <p>9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果の公開はしているか</p> <p>9-45-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか</p> <p>9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか</p> <p>9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか</p>
(10)社会貢献・地域貢献	<p>10-46 教育資源を活かした社会貢献</p> <p>10-46-1 教育資源を活かした社会貢献をしているか</p> <p>10-47 ボランティア活動の支援</p> <p>10-47-2 ボランティア活動の支援をしているか</p>
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者者の評価結果や改善方策等のうち、特に企業等から参画した委員の意見については、学科の「カリキュラムや授業等の作成・見直し等」「産学官連携によるインターンシップ、実習等」「教職員の研修等」の教育活動やその他「教育理念・目的・育成人材像」「学生支援」等学校運営の改善等に活かせるよう考え取り組んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月20日現在

名前	所属	任期	種別
井上 勲	株式会社アイディーエイ 代表取締役会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
高見 修一	株式会社FOMES design 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
竹本 聖文	有限会社アド・タケモト 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
眞鍋 寿男	株式会社ジャパングループ 代表取締役	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	企業等委員
丹生 恵子	中国デザイン専門学校 教育助成会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	PTA
藤若 典弘	有限会社ヴィジョンイメージファクトリー 代表取締役	代 平成27年4月1日～平成29年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(◎ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の学生が、どのようなカリキュラムを通じて知識・技術・技能を修得しているのか、また、質の高い教育プログラムを提供するために、学校としてどのような工夫・改善に取り組んでいるか等を具体的な教育情報を分かりやすく公表し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信している。さらに、本校の基本的な教育組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、本校教育の質の確保・向上を図ることが重要と考えている。以上情報提供の基本方針として取り組んでいる。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色</li> <li>●校長名、所在地、連絡先等</li> <li>●学校の沿革、歴史</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入学者に関する受入れ方針及び入学数、収容定員、在学学生数</li> <li>●カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時間数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画)</li> <li>●進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等)</li> <li>●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等</li> <li>●資格取得、検定試験合格等の実績</li> <li>●卒業数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員数(職名別)</li> <li>●教職員の組織、教員の専門性</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育への取組状況</li> <li>●実習・実技等の取組状況</li> <li>●就職支援等への取組支援</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事への取組状況</li> <li>●課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生支援への取組状況</li> </ul>
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等)</li> <li>●活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)</li> </ul>
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>●貸借対照表、収支計算書</li> </ul>
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>●評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校運営の状況に関するその他の情報</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

( ◎ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

授業科目等の概要

(造形専門課程ビジュアルデザイン科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			体育実習	夏期、冬期に分かれ、3日間の集中講座を行う。履修者はバドミントン、スキー、スノーボードから選択する。どの科目も基礎的なフォームから学び、初級、中級、上級コースで自分にあったレベルの技術を習得する。	1	30	1			○	○	○			
		○	夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	1前	60	2			○	○		○		
		○	冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	1後	30	1			○	○		○		
		○	SHR	学校生活における必要な連絡事項などをクラスごとに告知をする。	1	60	2			○	○		○		
○			色彩士検定	色彩において、必要に応じ、正確に色彩について理解し提案できる能力を身に付ける。	1前	15	1	○			○		○		





		○	ベーシックデザイン (クローッキー)	15分単位で学生にモデルになってもらってクローッキーをする。授業ごとにポーズを変えたり、アイテムを持ったりして、様々なポーズを描く。重心、バランス、骨格など描く上で必要な要素を学ぶ。	1前	45	3			○	○	○		
		○	ベーシックデザイン (デッサン)	鉛筆デッサンを中心に、指定されたモチーフを紙に描く。	1前	30	2			○	○		○	
		○	ベーシックデザイン (色彩)	テキストを用いて各单元ごとにプリントを通じて知識を身につけていくとともに、一单元、一課題で理解を深めていく。	1前	30	2			○	○		○	
		○	ベーシックデザイン (平面)	主にアクリルカッシュを用いた表現で、様々なテーマ・課題条件の平面構成課題に取り組む。配色、サイズ、位置、リズム、規則、不規則、方向性、数、コントラスト、メリハリ、インパクト、スペース、図と地、バランス、統一感、グリッド、デフォルメ、奥行き、イメージ、発想、シスル感、オリジナリティ、などの視点を通じて構成する。	1前	45	3			○	○		○	
		○	レタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>レタリングの基本的な知識を学ぶ。</li> <li>手作業で基本的な書体(明朝体・ゴシック体・ひらがな・ローマ体・サセリ体)の拡大視写をし、レタリング技法を学ぶ。</li> <li>効果的な文字の演出方法を実技を通じて学ぶ。</li> </ul>	1前	30	2			○	○		○	
		○	広告入門	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場リサーチ→社会の動きに敏感になる。</li> <li>様々な広告戦略の把握・様々な広告表現の把握</li> <li>広告の企画→市場リサーチ・戦略を踏まえたデザイン提案</li> </ul> 上記についてレポートや戦略シート、デザインを作成する。	1前	45	3			○	○		○	
○			コンセプト基礎	ものづくり、デザイン作業に必要なコンセプト(全体の元となるおおまかな考え)の構築方法を学び、具体的な作品の企画、立案、構成を行う。	1前	30	2			○	○		○	

			○ Mac入門	Adobe Illustratorの基本操作を習得し、キャラクター制作を通して本アプリケーションの特徴であるベジェ曲線（ベクターデータ）の特性の理解と習得を行う。さらに、テキストの編集やイラストを用いての印刷物の作成、出力を目指す。	1 前	15	1				○	○	○					
			○ 進級制作 I	・スケッチブックやケント紙、模造紙を使ったコンセプトメイキング、デザインラフの制作 ・パソコンを使ってプレゼンテーションボードの制作 ・アクリル絵具を用いてB1サイズのポスター制作 ・コミュニケーション力向上を目的としたプレゼンテーション発表	1 後	60	2					○	○	○				
			○ ベーシックデザイン演習	①パソコンを使った進級制作プレゼンテーションボード制作。 ②企業連携・協同事業実習の為に、グループでキャラクターデザインコンペ活動をおこなう。 ③アクリルガッシュによるタイポグラフィ課題の制作。	1 後	45	3					○	○	○	○			
			○ ベーシックデザイン（描写）	鉛筆による描写（持ち方、消し具の使い方、ハッチング等）。模写・基礎形態（楕円、立方体、球体等）を授業ごとに対象を変えて描写する。	1 後	45	3					○	○					○
			○ Mac演習	Adobe Photoshopの基本操作とデジタル画像の基本知識を習得する。Illustratorとの連携による、より高度なグラフィックデザインや、表現活動を行う技能の習得を目指す、この制作を通して、基本的なDTPへの理解を深める。	1 後	30	2					○	○	○				
			○ 色彩演習	各テーマを深く追求する習慣を身につけ、自分なりの表現で各課題に課せられた条件を理解した上での完成度の高い作品を制作する。	1 後	45	3					○	○					○
			○ VD入門	アイデアスケッチを重視した、手作業でのカンパ制作。 様々な目的の印刷媒体制作を通じて、基本的なレイアウトと表現方法を修得する。	1 後	45	3					○	○	○				

		○ イラストレーション入門	画材別イラストの制作を行いながら一人一人の可能性を追求していく。	1 後	30	2			○	○	○			
		○ キャラクター入門	各制作シートにあわせて設定を考え、各種キャラクターを制作する。	1 後	30	2			○	○	○			
		○ アニメ入門	原画・動画としての人物、植物、現象、メカetcを描く技術を学び、動画技法を完全にマスターする。実写・アニメーション・CM制作を研究し、作品を制作する。	1 後	30	2			○	○	○			
		○ マンガ入門	Gペン、丸ペンなど漫画で頻繁に使用する道具を使った作画訓練。漫画の下書きの下書きであるネーム制作まで行う。	1 後	30	2			○	○				○
		○ 夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	2 前	60	2				○	○			○
		○ 冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	2 後	30	1				○	○			○
		○ SHR	学校生活における必要な連絡事項などをクラスごとに告知をする。	2	60	2				○	○			○

○			インターンシップ	夏期期間の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。企業実習を通じて、現場での実作業により確実なスキルアップを目指す。企業評価を受ける事を目的とする。	2前	15	1				○	○		○	○	
○			ビジネスマナー	ビジネス能力検定3級のテキストを使用。座学に加えロールプレイング、実技練習、ディスカッションを行う。自己発見シートを作成し、履歴書の書き方を練習する。面接練習はグループに分かれて行い、試験官と受験者の両方を体験する。新聞やインターネットの情報を読みながらビジネス用語に触れる。	2前	15	1	○				○			○	
		○	ライフデザイン③	担任やクラスメイトとの情報交換、面談を通じて、目標に向かった学生生活を送れるよう計画・振り返りをする。ビジュアルデザイン科合同のグループワークでは、3年生の補佐をしながら自分の役割や他者との関わり方を意識し、グループ全体としての成果へ結びつける。企業連携・協同事業実習の為にライトアップ企画やロゴデザインなど校外での活動をおこなう。また、就職活動に向けての準備や心構えを行う。	2前	30	1				○	○		○	○	
		○	ライフデザイン④	クラス毎に行事に取り組み、クラス内のチームワークを高める。また合同企画では企画力や発想、コミュニケーション能力も高めていく。	2後	30	1				○	○		○		
		○	情報デザイン検定	情報デザインの基本要素「考え方」、「分析力」、「論理力」、「表現力」、「提案力」をJ検 情報デザイン試験公式テキスト「新試験対応版 J検情報デザイン完全対策公式テキスト」を使って学習する。J検 情報デザイン試験の過去問題を解きながら試験対策をする。	2前	15	1	○				○		○		
		○	ゼミ I	それぞれ講師の専門性を活かした内容の実習授業を行う。ものづくりに対する視野や専門性を高め、デザインや将来に対する理解を深める。企業連携・協同事業実習の為にライブペイントやシャッターペイントなどの活動をおこなう。	2前	45	3				○	○		○	○	
○			コンセプトメイキング I	演習からコンセプトの作成方法を理解する。また、進級制作テーマを基にコンセプトメイキングを行い、制作内容の企画をたてる。なお、自らたてた制作スケジュールに添って制作を行い、自主性を強化する。	2前	30	2				○	○		○		



		○ DTP制作 I	・ Adobe Illustratorを使ったトレース技法／素材制作・エンドユーザやクライアントを想定した、伝わりやすく効果的なデザインレイアウト（文字、サイズ、位置、配色、余白、図版の工夫など）を学ぶ。・基本的な印刷物制作のワークフロー（立案、デザインラフ、カンパ、校正、データ入稿、納品）を通じて制作する。企業連携・協同事業実習の為に年賀状デザインや書籍のカバーデザイン活動をおこなう。	2 前	45	3				○	○	○	○
○		イラストレーション表現 I	●イラスト作品模写…自分の好きなイラスト作品の模写をする。●イラストマニュアル制作…絵で説明をすることを学ぶため、イラストを使った説明書を作る。●トートリスキャンパースワート…トートバッグに絵を描くコンパに挑戦する。●ライブペインティング…大きな画面に集団で即興で描く手法に挑戦する。	2 前	45	3				○	○	○	
○		イラストレーション演習 I	アナログ、Illustrator、Photoshop等を用いてタイプ別イラストの制作を行いながら一人一人の可能性を追求していく。	2 前	45	3				○	○		○
		○ イラストレーション技法 I	仕事としてイラストレーションを制作するために必要な人物の描き分けや、構図、色彩の重要性を学ぶ。	2 前	45	3				○	○		○
○		キャラクターデザイン I	既製商品をモチーフにキャラクターデザインを行い、イラストレーターとフォトショップで仕上げ制作を行う。	2 前	45	3				○	○	○	
○		立体キャラクター制作 I	自然物（主に野菜、虫等）からモチーフを選択し、イラスト、写真から発泡スチロール、粘度を使って立体化する。立体化後、オリジナルデザインのペイントをする。	2 前	30	2				○	○		○
		○ DTP演習 I	IllustratorとPhotoshopを使いトレース技法、素材制作 クライアントを想定したレイアウトを学ぶ。	2 前	45	3				○	○	○	





		○	ライフデザイン④	担任やクラスメイトとの情報交換、面談を通じて、目標に向けた学生生活を送れるよう計画・振り返りをする。ビジュアルデザイン科合同のグループワークでは、3年生の補佐をしながら自分の役割や他者との関わり方を意識し、グループ全体としての成果へ結びつける。企業連携・協同事業実習の為にライトアップ企画やロゴデザインなど校外での活動をおこなう。また、就職活動に向けての準備や心構えを行う。	2後	30	1				○	○	○		
		○	ゼミⅡ	それぞれ講師の専門性を活かした内容の実習授業を行う。ものづくりに対する視野や専門性を高め、デザインや将来に対する理解を深める。企業連携・協同事業実習の為にシャッターペイントなどの活動をおこなう。	2後	45	3				○	○		○	○
○			V I計画Ⅱ	身近な存在であるスーパーマーケットのVIを制作する。建物・内装については既存のものをつかい、SPツールの制作を行う。	2後	45	3				○	○		○	
		○	エディトリアル演習Ⅱ	既存の雑誌や誌面を参考に、Illustratorを使ってレイアウト・文字組み・タイトルの見せかたなどの知識や技術を実践形式で学ぶ。課題提出時にはプレゼンテーションを行い「伝える力」を身につける。	2後	30	2				○	○		○	
		○	パッケージ演習Ⅱ	パッケージデザインについての基礎知識とデザインの制作現場の具体例を取り入れ、基礎技術と知識を習得する。	2後	45	3				○	○		○	
		○	DTP演習Ⅱ	・ Adobe Illustratorを使ったトレース技法／素材制作 ・ インターユーザーやクライアントを想定した、伝わりやすく効果的なデザインレイアウト(文字、サイズ、位置、配色、余白、図版の工夫など)を学ぶ。 ・ 基本的な印刷物制作のワークフロー(立案、デザイン入力、カンパ、校正、データ入稿、納品)を通じて制作する。	2後	45	3				○	○		○	
	○		WebデザインⅡ	①HTMLによるページ構造 ②CSSによるページ装飾 ③Web制作のためのグラフィックパーツとページのデザイン	2後	45	3				○	○		○	

		○	フォト	カメラの原理である明るさ調整のしくみ、ピントの合うしくみを理解し、写真の根本を学ぶ。それにより、デジタルとなった現在でも不変の写真技術を習得する。	2後	30	2				○	○						○		
		○	版画技法	基本的な技法として①エッチング②ドライポイント③アクワチントを学び、時として一部メゾチントをとり入れる。あわせてエアブラシによるアクワチント技法をとり入れ、ほんの少しエアブラシを学ぶ。世界の銅版画等のコンペについても紹介する。	2後	45	3				○	○							○	
○			イラストレーション表現Ⅱ	進級制作の作品制作と展示レイアウトの制作。	2後	45	3				○	○							○	
○			イラストレーション演習Ⅱ	実践を想定した具体的なイラスト作成の課題に取り組む。	2後	45	3				○	○							○	
		○	イラストレーション技法Ⅱ	各媒体を想定し、実際のイラストレーション制作の現場での制作行程 アイデア出し、ラフの制作、ラフチェック、仕上げ、入稿までの順を追い、仕事に合致した制作プロセスを学ぶ。	2後	45	3				○	○							○	
		○	キャラクター演習Ⅰ	3Dソフトの使い方、PC内で立体的なキャラクターを作成する初歩的な技術を学ぶ。	2後	30	2				○	○							○	
○			キャラクターデザインⅡ	主にMacのPhotoshop&Illustratorを使用する。必要があればペン等授業ごとに課題を設け、その条件に従ってキャラクター制作をおこなう。アナログ文具使用可。(キャラクター(メインデザイン)、動きのバリエーション、製品に使用した様等…)。条件を自分なりにくみ取りつつ、楽しんでキャラクター制作を進める。	2後	45	3				○	○								○

		○	キャラクター表現Ⅱ	設定に基づきキャラクターの容姿、見た目、全体像を作成する知識、技術を学ぶ。	2後	45	3				○	○	○		
○			立体キャラクター制作Ⅱ	各自オリジナルのキャラクター・オブジェをデザインし、発泡スチロール、粘土、樹脂を使って、立体物を制作する。立体化後、ペイントする。	2後	45	3				○	○		○	
		○	映像制作Ⅰ	カメラなど機材の基本的操作法を学ぶ。グループ制作を通して個の役割を理解する。基本的な専門用語の理解。実写イメージのアニメ、コミックへの応用。	2後	45	3				○	○		○	
		○	マンガ・カラー技法Ⅰ	画材講義の中で決定した画材を使用し、印刷物の制作及びコンペへの挑戦を行う。	2後	45	3				○	○		○	
		○	DTP制作Ⅱ	・印刷用データの作成方法を学びながら、いくつかの課題を制作する。レイアウトのルールを学び、より見やすく効果のあるレイアウトを行う。写真を使ったデータの作り方（印刷用）。両面刷り版下データの作成。	2後	45	3				○	○		○	
○			アニメ・マンガテクニカル演習Ⅱ	アナログ画材を用いた原稿作成。テーマをモチーフとし、作画方法も自分だけの手法にこだわらず立ち回れる描写の向上を目指す。	2後	30	2				○	○		○	

○		マンガ制作Ⅰ	座学授業では黒板に板書しながら説明をするので、メモ帳の準備が必要。また、技術指導や課題制作時間もあるため、原稿セット（ネーム～原稿まで制作するのに必要な道具）の持参もすること。座学でストーリーやキャラクター作りの基礎を学び、技術指導や課題制作時間でそれを定着させる。	2 後	30	2			○	○	○		
	○	マンガ構成Ⅱ	ストーリーマンガの制作の流れを理解し、キャラクター設定・画面構成・効果的なコマ割り等を学習する。	2後	30	2			○	○	○		
○		進級制作Ⅱ	前期の中間報告会をうけて、制作内容の改善とクオリティアップを行い進級制作作品を完成させ、制作合評会での作品プレゼンテーションを行なう。	2 後	30	1			○	○	○		
○		進級制作展示計画	各自の作品の展示計画及び展示会全体の準備（制作物作成）を行う。	2 後	30	1			○	○	○		
	○	ビジネスアプリケーション	excel wordなどOffice系のソフトの使用方法を学ぶ。 3後 15 1 ○	2 後	15	1	○			○	○		
	○	海外研修	イギリス、フランスを約2週間かけて、旅行をする。オプションでイタリアまで行く。各自グループになり、スケジュールは全て学生が決めて自分達で行動する。参加者は海外デザイン研究を履修し、事前にリサーチ、スケジュール作成などをして、研修後には報告会を実施する。	3 前	98	1			○	○	○		
	○	夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	3 前	60	2			○	○	○		

		○ 冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	3 後	30	1				○	○						○
		○ SHR	学校生活における必要な連絡事項などをクラスごとに告知をする。	3	60	2				○	○						○
		○ 海外デザイン研究	海外旅行ガイドブックや業者の資料をもとに、海外旅行日本とヨーロッパの出国と帰国の手続き(出発準備、出国帰国の流れ、帰国時機内持ち込みについて)、ヨーロッパの交通情報、現地情報等を学ぶ。トランプル英会話では、毎回海外での状況を設定し(入国手続き、ホテルでの英会話、レストランでの英会話など)その状況に応じた簡単な英会話や注意事項、楽しむポイントなどを学習する。	3 前	15	1	○				○						○
		○ トラベル英会話	旅行英会話中心で、単語と会話をゲームやロールプレイなどを通して学び、現地で使えるようにしていく。日常会話でも使える人にものを頼むときの表現なども合わせて学んでいく。	3 前	15	1	○				○						○
		○ ライフデザイン⑤	担任やクラスメイトとの情報交換、面談を通じて、目標に向けた学生生活を送れるよう計画・振り返りをする。実践的な就職活動に臨み、自分の目標に添った成果を挙げられる環境づくりをする。 ビジュアルデザイン科合同のグループワークでは、3年生としてリーダーシップをとりながら自分の役割や他者との関わり方を意識し、グループ全体としての成果へ結びつける。企業連携・協同事業実習の為にライトアップ企画やロゴデザインなど校外での活動をおこなう。	3 前	30	1					○	○					○
		○ ライフデザイン⑥	担任やクラスメイトとの情報交換、面談を通じて、卒業に向け目標に添った学生生活を送れるよう計画・振り返りをする。実践的な就職活動に臨み、実践で役立つ社会性を学ぶ。展示会準備では、3年生としてリーダーシップをとりながら2年生と適切な連携が図れるよう計画・検討する。学外での体験を通じて、クリエイティブな分野への視野を広げ、今後のクリエイティブワークに役立つよう振り返りをする。	3 後	30	1					○	○					○



○			イラストレーション表現Ⅲ	イラストレーションの教科書という教科書を用いてアイデアの出し方から業界の内容までイラストレーターの仕事のポイントを講義形式で進めていく。また、授業の後半では卒業制作のコンセプト、ラフ案、制作を行っていく。	3前	45	3			○	○	○						
○			イラストレーション演習Ⅲ	①イラスト制作の実演 ②デザイン知識・技術の習得 ③さまざまな表現方法を体験する ④実際の仕事を想定した課題への取り組み	3前	45	3			○	○	○						
○			キャラクターデザインⅢ	キャラクターの制作を中心に、よりクオリティの高い作品を目指す。制作したキャラクターを使ってポスターやノベルティ商品などへのグッズ展開も学ぶ。	3前	30	2			○	○	○						
○			立体キャラクター制作Ⅲ	各自、オリジナルのデザインでキャラクター・オブジェをデザインし、発泡スチロール、粘土を使って、立体物を制作する。細部の質感や表面の処理を意識した制作をおこなう。	3前	30	2			○	○	○						
○			アニメ・キャラクター表現Ⅲ	キャラクターの設定や背景の作り方を学ぶ。また、アニメーションにおける音響・声の研究・録音など全ての行程を学習する。	3前	45	3			○	○							
		○	アニメ・キャラクターシナリオ演習Ⅱ	話づくりに必要な発想の研究・企画を学習する。ストーリー性（起承転結）を勉強することで面白い作品を制作する。	3前	45	3			○		○						
		○	DTP演習Ⅲ	・印刷用データの作成方法を学びながら、いくつかの課題を制作。レイアウトのルールを学び、より見やすく効果のあるレイアウトを行う。 ・特色印刷・折りのある印刷物・ショップツールの作成。	3前	45	3			○	○	○						







			○ キャラクター 表現Ⅳ	設定に基づきキャラクターの容姿、見た目、全体像を作成する知識、技術を学ぶ。世界観、他のキャラクターとのバランスを踏まえ、デザインを行う。	3 後	45	3				○	○	○		
			○ 立体キャラク ター制作Ⅳ	今までの制作をふまえ、各自テーマを自由に設定し、キャラクター、オブジェを制作する。素材も、発泡スチロール・粘土・布など自由に選択して制作をおこなう。	3 後	45	3				○	○		○	
			○ 映像制作Ⅱ	カメラなど機材の基本的操作法を学ぶ。グループ制作を通して個の役割を理解する。基本的な専門用語の理解。実写イメージのアニメ、コミックへの応用。	3 後	45	3				○	○		○	
			○ アニメーショ ン演習Ⅳ	発想・企画・テーマと“何を制作するか”という原点からアニメーションのジャンルまで決定していく。	3 後	45	3				○	○	○		
			○ マンガ・カ ラー技法Ⅱ	画材講義の中で決定した画材を使用し、印刷物の制作及びコンペへの挑戦を行う。	3 後	45	3				○	○	○		
			○ DTP制作Ⅳ	IllustratorとPhotoshopを使って印刷物の作成、広告物の作成を実践形式で学ぶ。	3 後	45	3				○	○	○	○	
			○ DTP演習Ⅳ	IllustratorとPhotoshopを使って情報整理や表現方法を実践形式で学ぶ。課題提出時にはプレゼンテーションを行い「伝える力」を身につける。企業連携・協同事業実習の為にイベントチラシのデザインなど校内外での活動をおこなう。	3 後	30	2				○	○	○		

○		アニメ・マンガ テクニカル演 習Ⅳ	アナログ・デジタルを問わず、実際に現場で必 要な描写や構成力、発想力を身につける。	3 後	30	2				○	○								○
	○	マンガ制作Ⅱ	座学授業では黒板に板書しながら説明をするの で、メモ帳の準備が必要。また、技術指導や課 題制作時間もあるため、原稿セット（ネーム～ 原稿まで制作するのに必要な道具）の持参もす ること。座学でストーリーやキャラクター作り の基礎を学び、技術指導や課題制作時間でそれ を定着させる。	3後	30	2				○	○								○
		○ マンガ構成Ⅳ	マンガ制作におけるストーリーづくり・画面構 成の基礎を踏まえ、ネームから原稿制作の仕方 を学ぶ。	3後	30	2				○	○								○
		○ タイポグラ フィⅡ	メディアやサイズに合わせ文字を美しく見せる テクニックを身に付ける。Illustratorなどの PCソフトを使用し独自のフォントを作成する。	3後	30	2				○	○								○
		○ ビジネスアプ リケーション	excel wordなどOffice系のソフトの使用方法を 学ぶ。	3後	15	1				○									○
○		卒業制作展示 計画	各自の作品の展示計画及び展示会全体の準備 （制作物作成）を行う。	3 後	30	1					○	○							○
合計				134科目				5017単位時間(				301単位)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等												
進級・卒業には年間35単位以上及び当該年次における全必修科目の取得を要する。ま た、卒業には総計105単位以上の取得を要する。							1学年の学期区分			前期・後期									
							1学期の授業期間			15週									

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合  
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。